

柔道整復師



健康保険が使えるので、患者さんの負担が少なく、毎日治療ができる

奥野亜弥 さん(26歳)

大学卒業後、整骨院や整体院の運営を行う株式会社シーエムシーに就職。整骨院で働きながら専門学校に通い、08年3月に柔道整復師の資格を取得。千葉県「初富中央整骨院」で働く。



包帯やテーピングで患部を固定し、治療した部分を安静にする。磁石や電気で筋肉に働きかける治療なども行う。



資格取得で、院長が私を「ひとりの先生」としてみてくれるようになりました。今まで以上に責任を感じます

人に喜んでもらえる仕事がしたいと思い、柔道整復師を目指した

08 年3月に資格を取得し、晴れて柔道整復師として働き始めた奥野亜弥さん。現在の職場である整骨院には、養成校で勉強していた3年間も勤務していたので、今、さまざまな変化を感じていると言います。

「これまでは受付や助手という立場でしたが、今は患者さんの治療もできるようにになりました。といっても院長に相談しながら進めているので、まだまだ未熟なのですが、院長や患者さんから先生と呼んでもらえたり、実際に患者さんを治療するたびに、資格の重みを感じます」

そんな奥野さんが柔道整復師を目指すきっかけとなったのが、大学3年時に出席した就職説明会で、現在、奥野さんが勤務する整骨院の母体である会社の説明を聞いたことだった。

「整骨院で働きながら養成校に通って国家資格が取得できることや、柔道整復師の治療範囲がねんざや骨折、脱臼やうまでと幅広いことなどを知りました。幼い頃、祖母の肩をもんで褒められ、

うれしかった経験なども思い出して、柔道整復師になりたいと思いました」

患者さんと長くおつき合いたいので信頼関係が深まる

こ の仕事の魅力は「日に日に変化する患者さんの様子が見られること」。最初は痛みでつらそうにしているも、治療が進むにつれて身体が良い方向へ改善されると、患者さんに笑顔が増える。ねんざや骨折など、治療に時間がかかるものは、患者さんとも長いおつき合いになるので、コミュニケーションが深まるのも楽しいと言います。

「患者さんのなかに無口なおじいちゃんやいたのですが、毎日話しかけていたら、症状のことなど、少しずつ話してくれるようになりました。心を開いてくれたことがうれしかったですね。こうやって私自身いろいろな人とかわり合うことで、世界観や人生観が広がるので、成長させてもらっています」

今の奥野さんの目標は、早く一人前になること。その目標を胸に、日々、頑張っている。

資格の将来性

「介護予防」のための治療も増えている



高齢者の増加に伴い、柔道整復師の需要は拡大中。介護が必要な状態をできる限り防ぎ、仮に介護が必要になっても、状態が悪化しないように維持する介護予防の考え方も普及。その観点で行う治療も増えている。

学び方

現場を体験することで知識や技術を吸収する

ポイントは

養成校で勉強中は整骨院などで働き技術向上に役立てる

柔道整復師の仕事は臨床経験が重要なので、養成校に通いながら整骨院や接骨院で働く人が多い。「先生の治療法や、患者さんが回復する様子が参考になりました。学校で学んだことを、より理解できた」と、奥野さん。

どんな資格?

整骨院や接骨院に勤務し、患者を治療するために必須の国家資格

ねんざや骨折、打撲、脱臼などの外傷に対して、適切な応急処置を施す柔道整復師。有資格者でなければ治療にあたることができず、資格を取得するには国が指定する教育機関で3年以上学び、国家試験に合格する必要がある。整骨院や接骨院、整形外科病院、リハビリセンターなどで活躍するほか、独立開業することもできる。

